

工、難可以定論拘也。

〔醫事或問下〕一或問曰、仲景の治跡を見るに、一病一方なり、今煎湯に丸散を雜へ用ゆる事、古とことなり、いかん。

答曰、異にあらず、傷寒論、金匱にも、大便通せざる時は、先調胃承氣湯をあたへ、大便通じて後、證に隨ふて、藥を用ひたる事あり、古になしといふべからず。

〔續古事談五〕唐人ノ云ケル、ハカリニテ藥ハ合テ服スベキ也、反魂香ト云物アリ、死人ノタマシキヲカヘス香也、一銖モタガヒヌレバキタルコトナシ、カ、レバ、コト藥モ、ヨクハカリヲサムベキナリ。

〔太平記二十五〕宮方怨靈會六本杉事附醫師評定事

四五日有テ後、足利左兵衛督直ノ北方相勞ル事有テ、和氣丹波ノ兩流ノ博士、本道外科一代ノ名醫數十人、被招請テ脈ヲ取セラル、ニ、或ハ御勞リ風ヨリ起テ候ヘバ、風ヲ治スル藥ニハ、牛黃金虎丹、辰沙天麻圓ヲ合セテ、御療治候ベシト申ス、或ハ諸病ハ氣ヨリ起ル事ニテ候ヘバ、氣ヲ收ル藥ニハ、兪山人降氣湯、神仙沈疇圓ヲ合セテ、マイリ候ベシト申、或ハ此御勞ハ、腹ノ御病ニテ候ヘバ、腹病ヲ治スル藥ニハ、金鎖正元丹、秘傳玉鎖圓ヲ合テ、御療治候ベシトゾ申ケル、斯ル處ニ、施藥院師嗣成、少シ遲參シテ、脈ヲ取進セケルガ、何ナル病トモ不辨、病多シトイヘ共、束テ四種ヲ不出、雖然混散ノ中ニ於テ、致料簡ヲケレ共、更ニ何レノ病共不見、心中ニ不審ヲ成處ニ、天狗共ノ仁和寺ノ六本杉ニテ評定シケル事ヲ、屹ト思出シテ、是御懷妊ノ御脈ニテ候ケル、シカモ男子ニテ御渡リ候ベシトゾサ、ヤキケル、當座ニ聞ケル者共、アラ惡ノ嗣成ガ追從ヤ、女房ノ四十ニ餘テ、始テ懷妊スル事ヤ可有ト、口ヲ噤メヌ者ハ無リケリ、去程ニ、月日重誠ニ只ナラズ成ニケレバ、ソゾロナル御勞リトテ、大藥ヲ合セシ醫師ハ、皆面目ヲ失テ、嗣成一人、所領ヲ給リ、俸祿ニ預ルノミ